

第6回口腔ケア研修会 【研修A】【研修B】 Q&A

Q1 「居宅療養管理指導」とは

A1 「居宅療養管理指導」とは、介護保険制度において要支援、要介護の認定をうけられたかたで、通院が困難なかたのご自宅（居宅）を訪問し、継続的な医学的管理に基づいて医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士が行うものです。具体的には◆居宅介護支援事業者（ケアマネージャー）へ、居宅サービス計画の作成等に必要な情報を提供します（利用者の同意を得て行うものに限る）。◆要介護者または家族のかたへ、居宅サービス利用上の留意事項や介護方法の指導・助言等を行います。◆その他、療養上必要な事項についての指導・助言を行います。

Q2 歯科における「居宅療養管理指導」とは？

A2 歯科医師が行う「居宅療養管理指導」はつきに1回500単位（500円）で月2回を限度、歯科衛生士が行う「居宅療養管理指導」は1回350単位（350円）で月4回を限度とします。歯科衛生士が行う指導の内容としては、患者の口腔内や義歯の衛生面の口腔ケアと口腔機能を向上させるための機能面の口腔ケアを行います。

Q3 「居宅療養管理指導」と区分支給限度額管理との関係は？

A3 居宅療養管理指導は要介護度に支給される区分支給限度額管理には含まれない介護サービスで、居宅療養管理指導費は要介護者個人の支払いとなります。（1割負担）

Q4 「常時寝たきり」でないと訪問歯科診療、居宅療養管理指導は受けられないのか？

A4 介護保険においてはその対象は「通院が困難な利用者」とされていますが、医療保険においては厚労省の通達によれば、訪問歯科診療は原則として以下の3条件を満たす方が対象とされています。1. 拠点となる歯科医院から半径16km以内にお住まいの方 2. 常時寝たきりまたはこれに準ずる状態で歩行困難な方（介護保険の要介護度とは直接関係しない） 3. 医科（内科、整形外科等）に定期的に通院されていない方。しかし上記の3条件以外でも訪問歯科診療の適応の方がいらっしゃいます。今後後期高齢者医療制度が施行されれば在宅医療の充実が図られ、訪問歯科診療の需要はますます増えるものと考えられます。上記の3条件にとらわれず歯科医師または歯科医師会にご相談ください。

Q5 「情報請求書」に対する費用はかかるのか？

A5 歯科治療・口腔ケアに関する《情報請求書》は利用者さんの口腔関連情報について担当のケアマネージャーが、主治の歯科医師に提供を求めるものです。現在通院中の利用者さんにおいてはそのまま主治の歯科医師にご送付ください。現在通院していない場合はつい院をお勧めいただくか、通院できない場合は訪問歯科診療をご依頼下さい。「情報請求書」は医療保険における「診療情報提供書」に該当しますので、250点（一割負担で250円、3割負担で750円）の負担が発生します。原則として費用は利用者さんが負担することになります。

Q6 ケアマネ、家族、本人が知らないうちに「居宅療養管理指導」が算定されるケースがあるが、必ず本人の同意を取ってほしい。

A6 「居宅療養管理指導」算定の条件としてはA1のとおり「利用者の同意を得る」とありますので、歯科医師会としてもそのように指導していきたいと考えています。

- Q7 舌苔は全部とる必要があるのか？
- A7 体調が悪い時やお口の清掃状態が悪い時、舌の機能が低下した時には白い舌苔の量が増加します。この状態が続くと嫌気性の細菌が繁殖し、口臭の原因になり、味蕾細胞も覆われてしまい、味覚障害が発生します。厚く堆積した舌苔や、褐色や黒色の舌苔も一度にはなかなかとりにくいので、継続的な口腔ケアのほうが重要です。もともと舌の表面はうっすらと白いので、舌苔だからといって必要以上に舌をこすりすぎない方がいいと思います。普段から舌の観察をしていくことをお勧めします。
- Q8 歯ブラシの硬さについて
- A8 炎症のないお口の中を磨く際は、「ふつう」の硬さの歯ブラシでよいのですが、炎症がある歯ぐきや舌などの粘膜に当てる場合は「やわらかめ」場合によっては「スーパーソフト」というやわらか歯ブラシを使うこともあります。
- Q9 口腔ケア、治療の重要性を説明しても同意が得られないような場合があるが、どのようなアプローチをする必要があるか？
- A9 今回の研修会を通して「口腔ケア、治療の必要性」を深く理解して頂き、利用者やご家族の方々にお伝えいただければよろしいと思います。特にスライド6《歯周病や口の機能の低下と全身との関係》を活用していただくとともに、本会のホームページ歯科コラム <http://www.yokoshi.net/check-6.html> をご参照いただきたいと思います。
- Q10 飲み込めずに口の中に食物残渣が残ってしまいます。取り除くには？
- A10 指にガーゼを巻いて取り除くのもひとつの手法ですが、基本的には歯ブラシで取り除くやり方をお勧めします。